

お茶の美味しい季節です。

茶畑だよ

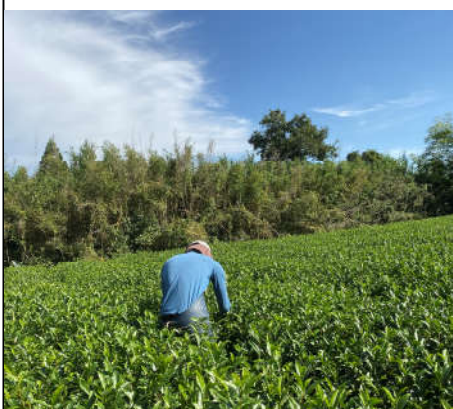
今年は秋になってから雨が少なく、作業がはかどりましたね。来年三月には三反の植え替えを予定しています。品質の良い新しい品種を植える予定です。色、香りも優れた品種です。ユニボを使った大がかりな工事になりそうなので年明けから大型ユニボをレンタルして一気にやってみようとおもっています。お茶とわり飲む事ができるのは三年はかかります。「やぶきた」「さえみどり」「べにふうき」に続く市川大楽園の新しいブランド茶になるよう期待しています。



改植予定の茶畑

新しいスタッフ

市川大楽園は家族以外の従業員はいません。しかし忙しい時期に手伝ってくれるスタッフがいます。今年には新たに一人加わりました。亀山市内の石水溪でエックスアドベンチャーズというキャニオニング(沢下り)の事業をたった一人で立ち上げた小野寺君という二十代の若者です。いずれは農業もやりたいということと六月から工場の清掃から除草作業まで手伝ってくれました。大学時代まで野球をしていたスポーツマンなので体力満々で伸びてきていた茶畑の雑草を手作業でぐいぐい抜いてくれました。沢下りの事業も軌道に乗ってきたようで来年は何日ぐらい手伝ってもらえるかわかりませんが体力が必要な作業が多いので心強いスタッフです。



茶畑で除草作業をする小野寺君

草刈り機を買いました。

草刈りハンマーナイフモアを買いました。お茶づくりに必要最低限の設備でやってきましたが思わず欲しい！と即決新品を買ったのは自分の中では珍しいことです。農業を始めた頃、「最初に乗用の草刈り機を買って草刈りの労力を減らすと良い」と本に書いてありました。二〇年前は百万円以上したので買うことはできませんでした。この草刈り機は乗ることもでき、キャタピラなので荒れ地にも強く、背丈以上に伸びた草むらも一気に刈っていきます。茶畑の周辺だけでなく、製茶工場裏の空き地や友人の実家の庭まで刈っています(笑)刈った草は細かく砕かれるので捨てる手間もいりません。今は荒れ地を見ると草を刈りたくなくなってしまいます。



あちこち刈りたくなります

うちの画伯 その⑧

みなさん！お元気ですか。あっといいう間に十二月。師走の心忙しい日々がやってきました。今年はコロナ禍の不安や慣れないマスクをつけての生活様式になり、まだまだ気を抜けない状況です。

自然界では何一つ変わらず巡る季節に花をつけ種から実へと移ろい続けています。そんなことを思いつつ今年のニューズレターのイラストを描きました。明るい柿色の背景に可愛い女の子とかわいらしい福猫さん。ほっと一息入れましょうという感じで楽しく描くことができました。温かいお茶でポカポカぬくぬくと心と身体がほっこりと・・・免疫力を高めていただきくれれば私も自愛ください。



今年の冬、京都にて



おっ
茶ん
の
亀
山

亀山のおっ茶ん通信

続報。新型コロナウイルス対策のために免疫力を高めるにはやはりお茶です。

新型コロナウイルスの影響が長引いています、お茶は以前からインフルエンザを予防するといわれてきました。感染症を防ぐという意味では、新型コロナウイルス問題の初期から免疫を高める飲み物として注目され続けてきました。さらに新たな情報が出てきています。お茶だけ飲んでいれば大丈夫というわけではありませんが、新型コロナウイルスに加えインフルエンザ流行の始まるこの時期をのりきる健康的な生活の一助としてお茶の力を活用したいものです。

市川大楽園製茶 代表 市川泰三

新しい情報が取り上げられています。

お茶で新型コロナ無害化 1分で最大99%

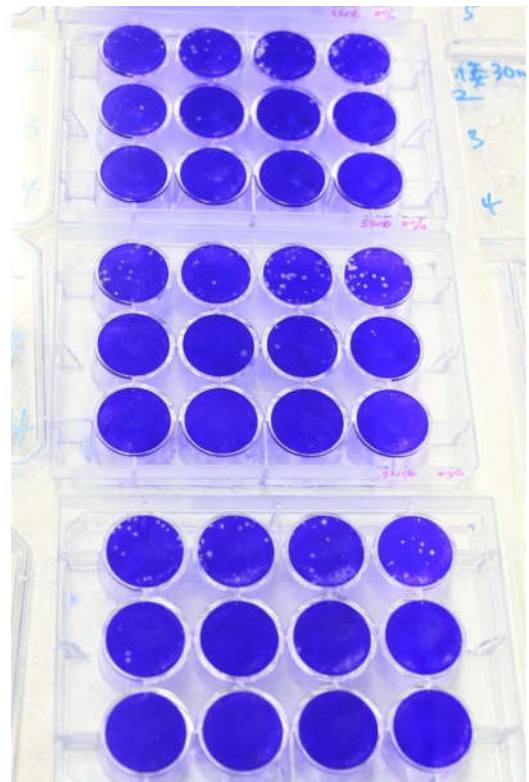
奈良県立医大 2020.11.27 21:51

奈良県立医科大学(同県橿原市)は27日、**新型コロナウイルスが市販のお茶によって無害化する効果を確認したと発表した**。基礎研究段階で人での効果は未確認だが、試験管内でウイルスが1分間お茶に触れることで最大99%が感染力を失っており、感染対策の一つとして期待。商品により効果に差があり、メーカーの許可を得て商品名の公表を検討するとしている。

実験は同大の矢野寿一教授(微生物感染症学)の研究チームが実施した。実験ではペットボトル入りの緑茶や紅茶など約10商品を使用。試験管内でウイルスとお茶を混ぜ、経過時間ごとの感染力を持ったウイルスの量を検査した。

最も効果が高かったのは茶葉から淹(い)れた紅茶で、感染力のあるウイルスは1分間で100分の1、10分間で千分の1以下にまで減少した。矢野教授は、人への効果について「可能性の段階」とした上で、「**インフルエンザでカテキンの効果は確認されており、お茶を飲むことで同じような効果が期待される**」と話した。

矢野教授によると、カテキンはインフルエンザウイルスなどの表面にある突起状のタンパク質に付着し、感染力をなくすことが確認されており、新型コロナでも同様の効果が推測されるという。



プラーク法で新型コロナウイルスの感染価を測定したプレート。白い斑点は感染力のあるウイルスが生き残っていたことを示す
＝奈良県橿原市

週刊女性 11月3日号「新型コロナはA型薄毛だと重症に」の記事より抜粋

緑茶のパワーに注目が集まるワケ

身近な食品を使った「コロナ対策」の研究も話題を集めている。緑茶などに含まれる茶カテキンにも注目が。京都府は京都大学と共同で、茶カテキンの新型コロナウイルスへの感染防止効果を確認する研究を進行中だ。カテキンには抗酸化力や抗菌作用があることから、自民党内では「茶カテキン研究会」を設立し関心を寄せている。「インフルエンザでは緑茶に予防効果を認める論文がいくつか出ています。

この時期、コロナだけでなくインフルエンザも予防しなければなりませんから、身近で取り入れる習慣としてはアリかと思えますね。実際私も緑茶はいただいています」(大谷医師)

手洗いやマスクはもちろん、できる対策は万全にして第3波の襲来に備えたい。